諫早市立真城小学校　学校だより　第１４号　　令和８年１０月１３日　　☎ 26-8700
学校教育目標　一人ひとりが主体的に学び、共に支え・磨き合いながら、夢を実現できる子どもの育成　　校長：竹添聡

真城っ子

やさしさいっぱい
かしこさいっぱい
たくましさいっぱい



■真城小学校ホームページ■　日々、真城小学校の様子や子どもたちの活動を投稿中。　*毎日チェック♥*

６年「修学旅行」

１０月８、９日、６年生が修学旅行で、佐賀・熊本方面へ出かけました。７月の地震やインフルエンザの早期流行等、心配事もありましたが、６年生の日頃の行いがよいおかげで、安心・安全に全行程を終えることができました。



【１日目】
真城小→→吉野ケ里遺跡→→熊本城→→阿蘇ホテル
【２日目】
ホテル→→三井グリーンランド→→有明フェリー→真城小

＜修学旅行のめあて＞
① 支えてくれる方々へ、言葉や行動で感謝を伝える。
② みんなが楽しめるように声掛け、助け合い。
③ 見聞きしたこと、感じたことを大切にして、学びを深める。



・目的意識をもって、見学地で見聞を広げていました。勝手な行動をとらずに、みんなで協力して行動できていました。
・社会規範の小学生のレベルを下回ることなく、他の迷惑にならない行動がとれていました。
・体調を壊さずに旅に参加できるように、自己の健康管理について意識を高め、具体的行動をとることができました。
・友達とともに非日常の２日間を過ごし、自分も集団の一員であり、多と共生していることに気づき自覚を深めました。










６年生は、修学旅行の事前準備から、旅行当日、そして振り返りを通して、自立の力と共生の心を高め伸ばすことができたと思います。卒業の日まであと半年。よりやさしく、かしこく、たくましく成長し、卒業の日を迎えられるよう「鍛えたところが強くなる」で頑張っていきます。

全校集会「チャンポンは、思いやりの味」



２学期が始まって、はやひと月がたちました。２学期の始業式では、この秋、真城小学校みんなのやる気があふれる秋にしていきましょうという話をしました。そんな秋にするためには、自分自身を鍛えることが大事で、体の３つの部分、体、頭、心のそれぞれから、しっかり汗をかかないといけませんよと、お話しました。みなさん、どうでしょうか。しっかり、自分を鍛えて、いい汗がかけているでしょうか。

６年生が、真城太鼓に一生懸命に取り組んでいます。11 月の披露会に向けて、最後の仕上げに入っています。聞こえてくる太鼓の音色は、たくましく、互いに響き合って、力強さを感じます。とてもいい体の汗をかいていると思います。このあとも、小体連に向けて、自分の力を高めていく、汗をいっぱいいっぱいかいていくことでしょう。６年生すごい。

次は、頭から出る汗。今週の月曜日、３年１組で国語の研究授業がありました。自分で作った俳句を、より良いものにしようと、しっかり考えて、頭からいい汗をかいていました。３年生すごいですよ。

最後の心から出る汗にかかわって、食べ物のお話をしましょう。

みなさん、長崎の食べ物といったら何を思い出しますか。きっと、チャンポンを思い浮かべるでしょう。チャンポンは、いったい誰が作り始めたのでしょうか。

今から１３０年前の明治２５年のことです。中国から１９歳の陳平順さんが、長崎にやってきました。陳さんは、中華料理店を開くために、お金を稼ごうと、リヤカーに売り物の反物を積み込んで、毎日毎日売り歩いたそうです。

それから 10 年ほど、月日がたち、陳さんは、長崎に中華料理店を開きました。また、陳さんは、中国から勉強のために長崎に来ている留学生のお世話もしました。そのころの学生はあまりお金がなく、毎日の食事に苦労していました。そこで、学生のためにと、陳さんは、安くてボリュームがあり、栄養いっぱいの料理を考えました。



長崎の海でとれるイカやカキ、小エビ、もやしやキャベツなど、季節の野菜も使うことにしました。こうして、長崎のチャンポンができあがったのです。陳さんは、学生がチャンポンをおいしそうに食べる姿を見て、とてもうれしい気持ちになりました。

陳さんが、チャンポンを自分が考案した食べ物として登録すれば、たいそうのお金儲けができたのですが、陳さんは登録しませんでした。そのことで、安くておいしいチャンポンは、たちまち長崎の町に広がり、長崎の名物になったのです。

人を思いやる心、弱い立場の人を助けようとする陳さんの心を、私たちも見習わなければなりません。陳さんが流してきた汗は、やさしさという心の汗です。

私たちの周りに目を向けて見ると、きつい思いをしている人、悲しくて悲しくてたまらないでいる人、自分でどうしようもなくて困っている人、たくさんの人が、あなたの温かい心を、きみの温かい行動を待っているのではありませんか。

私たちは、おいしいチャンポンで陳さんが留学生を救ったように、周りにいる人々と一緒に、助け合って、支え合っていける人になりましょう。

同時に、人から優しくされている人、人に心配ばかりかけている人、それ以上に迷惑をかけている人は、いつまでもお友達のやさしい心に甘えてばかりじゃいけませんよね。わがまま、自分勝手をやめて、優しさを人に与えることができる人に成長していきましょう。

真城小のみんなの思いやりの心は、陳さんのチャンポンの心に負けなくらい、やさしいなあと思っています。ここ真城小に、やさしい言葉や明るいあいさつ、温かい思いやりを、ますます増やしていきましょう。